

【コラム①】 文献研究に関する Q & A

Q. 文献研究は、どの程度行う必要がありますか？ 英文の文献が必ず必要ですか？

A. スポーツ等の実践現場で問題等に対処している場合であれば、その実践活動の中で行える範囲のものとなるでしょう。

実践での問題・課題が生じ、解決を模索している中では、文献研究は充分に行えないかも知れません。しかし、「実践研究」としての論文を執筆するとなると、実践現場での活動をしている時よりは、時間をとって文献や情報を収集したり、再確認したり、読み込んだりする必要があるでしょう。そのことにより、実践的活動で見えなかったことが、より別な角度から見えてくると思われます。もしかすると、これから執筆しようとしている筆者自身らが設定した問題や課題、そしてその解決過程は、「既知のことであった」ということもあるかもしれません。そうなれば、その課題に関する事例研究等をする意味は半減することになるかもしれません（筆者自身らの指導や活動過程を振り返り、記録を残すという意味での「事例報告」としては大きな意味があります）。しかし、そのような「既知のこと」にも関わらず、「筆者自身らが思い悩んだ事実や背景」を検討することは大きな意味や価値があるでしょう（會田ほか, 2016）。そのような意味からも文献=先人の知恵を活用することは重要と言えます。

また、闇雲に文献等の情報を収集するのは効率が悪いので、関連する事項に詳しい同僚（同輩・先輩）、専門家に尋ねて、その収集すべき文献についての情報を集めることもよいでしょう。

文献引用や研究の中に「英語の文献が必ずなければならない」ということはありません。ただし、現在では、比較的簡単に世界中の色々な情報を集めやすい環境にあることも事実です。海外等の情報に関心を持ち、情報収集すること、それを理解しようとすることは、引用する、しないに関わらず、筆者自身らが設定した課題や直面する問題を解決する上で有益な一手段であることを忘れないで頂ければと思います。

Q. 文献には、指導書やインターネット情報も含まれますか？

A. 文献には、指導書やインターネット情報等も含まれます。問題発生や解決の糸口、事例の結果についての解釈の根拠となった情報源として示すことは、特に重要です。また、研究を進める上で用いた実験手法や分析・解析法、さらには統計処理等について引用があれば、その引用基を明らかにし、明記することも大切です。

指導書、専門のスポーツ競技の雑誌等の場合の引用では、投稿論文先の文献引用の手引きや表記に従って示して下さい。書籍の場合は、その引用ページも示すことが期待されます。

インターネット情報については、引用 URL はもちろん、情報の変更等が頻繁に行われたりしますので、その“参照日”も示すようにして下さい。なお、写真・図・表等の引用をする場合、情報の管理者に確認を取る必要がある場合があるので、その点も注意して下さい。

さらに、経験知として指導者や競技者から得た情報についても、その情報提供の期日と氏名（公表の確認が取れているのであれば）を、「〇〇私信より、2014. 3」といった形で表現することもできます。

Q. Youtube 等の映像情報も文献に含まれますか？ 転用して提示してもよいですか？

A. Youtube 等の映像情報も文献として取り扱うことはできます。ただし、インターネット上のテキストデータと同様に、引用 URL はもちろん、情報の変更等が頻繁に行われたりしますので、その参照日も示すようにして下さい。

なお、映像情報を無断転用して論文に掲載することは、著作権等の問題へと発展しやすいので、行うべきではありません。転用の場合は、情報の管理者に確認、手続き等を取る必要があるため、その点も注意して下さい。